看護学生への認知行動的 Diversity 教育プログラムの研修内容の評価

Evaluation of a Cognitive-Behavioral Diversity Education Program for Nursing Students

○大植　崇
Takashi Ohue
兵庫大学看護学部看護学科
Department of Nursing, Faculty of Nursing, Hyogo University, JAPAN

【背景と目的】

日本を訪れる外国人や在留外国人の増加に伴い、異文化理解に基づいた看護実践が重要になっている。日本看護師協会(2021)の「看護職の倫理綱領」では、「看護職は、対象となる人々に平等に看護を提供する」ことが言及されている。看護職は、個人の習慣、態度、文化的背景、思想を尊重し、受けとめる姿勢をもって対応することが必要である。つまり、国際看護の実践では、多様性を理解することが重要と考えられる。多様性の理解を推進するため、近年、「ダイバーシティ」が注目されている。ダイバーシティとは、在留外国人のみならず障碍者や LGBTQ の人なども含む多様な人々とどのように共生していくかという概念であり、より良い社会を築くための基本的な考え方である。このような社会的背景を受け、大植（2023）は、大学生を対象とした認知行動療法を用いたダイバーシティ研修の効果を検証している。

本研究では、看護学生を対象に、大植（2023）の認知行動的ダイバーシティ教育プログラムを実施し、カークパトリックモデルや自由記述を用いて研修内容を評価することを目的とした。

【方法】

A 大学の看護学部に所属する学生より研究協力者を募集した。応募した学生に研究内容を説明し、学生に介入群か統制群のどちらかに入ることを選択させた。実施時期は、2022 年 12 月であった。介入群は、ダイバーシティの講義+マイノリティの学生生活のしにくさについて話題提供（身体障碍者学生 2 名、外国人留学生 2 名、LGBTQ の方+グループワーク（認知再構成法：マイノリティの人の状況や生活のしにくさを聴講して、生活のしにくさより、感じる感情、その時の認知を明確にする）を実施した。介入群の時間は 180 分であった。グループワークは、5 名のグループを作り、そこに、話題提供者のマイノリティの方がファシリテーターとして参加した。一方、統制群は、60 分間のダイバーシティの講義のみ実施した。評価指標として、カークパトリックの 4 段階評価法（満足度、理解度、実行可能性、学習への反映）：満足度については「5.非常に満足している」から「1.全く満足していない」、理解度は、「5.かなり理解した 」から「1.全く理解していない」、実行可能性と学習への反映については「5.かなりできる 」から「1.全くできない」それぞれ 5 件法で問うた。また、それぞれの研修内容の学びについて、自由記述で回答を求めた。

分析方法は、カークパトリックモデル評価については、介入後に評価指標を調査し、介入群と統制群で、t 検定を用いて比較検討を行った。また、自由記述については、テキストマイニングで分析を行った。統計ソフトは、IBM　SPSS　26 を使用した。また、テキストマイニングは、User Local AI テキストマイニングを使用した。

倫理的配慮は、兵庫大学研究倫理審査委員会(No. 22012)の承認を得たのちに実施した。倫理的配慮として、アンケート実施に際し、目的・内容、自由参加でありそれに伴う不利益のないこと、成績・評価には全く関係のないこと、プライバシーの厳守、学会等で公表すること等説明を行い、同意を得られた対象者のみ実施した。

【結果】

介入群 16 名、統制群 11 名であった。それぞれのプログラムについて、カークパトリックモデルの 4 段階評価法（満足度、理解度、実行可能性、学習への反映）について、介入群、統制群で t 検定を用いて比較した。その結果、介入群は統制群に比べ「満足度」「理解度」が有意に高かった（$p<.05$）。その他、有意差が確認されなかった。また、テキストマイニングで、データの比較検討を行った。その結果、介入群の単語分類では「生の声」「当事者」といった単語が多く確認された。単語の出現比率において、「名詞」では、「生活」「LGBTQ」「思い」「使用」「当事者」「海外」「参加」で統制群よりも多かった。動詞においては、「できる」「聞く」「知る」「受け入れる」「考える」「困る」で介入群は統制群よりも多かった。形容詞においては「悪い」「よい」「しにくい」「何気ない」「使いづらい」「古い」で介入群は統制群よりも多かった。

【考察】

研修に関する満足度や理解度は、介入群に高いことが分かった。また、介入群の方が、ダイバーシティに関わる重要な用語が抽出されたと考えられ、単に講義だけでなく、マイノリティの方の声や、グループワークでの共有は、多様性への学習効果を高める可能性があると考えられる。しかし、カークパトリックモデル評価の「理解度」「実行可能性」「学習への反映」は主観的評価であり、測定結果には限界がある。

【利益相反】　本研究における利益相反はない。

【文献】

日本看護協会 (2021). 看護職の倫理綱領, https://www.nurse.or.jp/nursing/assets/statistics_publication/publication/rinri/code_of_ethics.pdf

大植　崇 (2023) 大学生を対象とした認知行動的ダイバーシティ促　進プログラムの開発とその効果, 日本認知・行動療法学会大会発表論文集, 49, 502-503.